文章を書く楽しみを味わわせるために：実践例を中心に

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-03
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/23737

文章を書く楽しみを味わわせるために

― 実践例を中心に ―

鈴木　明

はじめに

文章を読み、初発の感想や疑問を書かせたり、学習のまとめとして感想を書かせること。文学的文章において、登場人物の心情や作品の主題を文章にまとめさせること。説明的文章において、各段落の要約や文章全体の主旨をまとめさせること。これらは国語科の学習としての基本であり、不可欠の学習事項である。しかし、これだけでは文章表現力を豊かにするということはむづかしい。さらに発展させて、文章を書く楽しみを味わわせ、自分の書いた文章に満足感を持たせるような学習も工夫する必要があるのではなかろうか。また、詩歌を創作させる際にも、具体的な作り方の指導やヒントを与えることが大切である。

生徒のほうに「書かせられている」という意識が強いと、かえって文章を書くことが嫌いになるだけである。そこで、指導者のほうでは、文章表現に気軽に取りくめ、楽しくかつ主体的に取り組めるような配慮や工夫が必要となってくる。そんな視点から、私が取り組んだ実践例のいくつかをここに紹介してみたい。

(1) 新聞づくり

小説文の学習のまとめおよび表現力を高めることを目標にして、新聞づくりを採り入れた。作品のあらすじや構成、登場人物の行動と心情、作品の主題などを、割り付けの工夫をしたり見出しやイラスト、インタビュー記事や解説記事などを折り込みながら、新聞の形にまとめさせてみた。この新聞をまとめるためには、作品を充分に理解していなければならないので、もう一度読み返したり、心情や主題についてじっくり考える機会にもなったようである。また、新聞という形式はひとりよがりな文章では成り立たず、読む相手にわかってもらえ、共感してもらえるような文章が要求されるので、わかりやすい文章（説得力のある文章）や楽しく読んでもらえるような文章を書くように、生徒達は努めていた。すなわち、新聞づくりの学習は、読解力を確かなものにし、想像力を豊かにするとともに、表現力を高める上でも効果的であったように思う。

ここでは、2年教材「クロスプレー」（光村図書）の学習において実践した新聞づくりの例を紹介する。

◎「クロスプレー」による指導実践例

① 題材について

少年達の草野球という身近な題材がとりあげられており、中学生にも親しみやすい小説になっている。一種の「野球少年小説」であるが、この作品をそれ以上のものにしているのは、少年と警官のそれぞれの心情の移り変わりが実に巧みに描かれている点である。最初は全くかみ合わない二人が、それでもお互いを意識しあう中で、それぞれの言動を通して、共に心情が移り変わっていく。そして、ラストのクロスプレーの場面では、二人に心の通い合うものが生まれてくる。そんな人間の心の不思議さと触れ合いの素晴らしさを、表現から読み取らせたい。また、表現の工夫が人物の心情や人柄を鮮明に浮かび上がらせている点にも気付かせたい。

② 指導計画

第一次　通読して感想を書かせる。　〔1時間〕

第二次　語句の意味や新出漢字を調べさせる。野球用語についても共通理解させる。　〔1時間〕

第三次　文章の構成について理解させる。　〔0、5時間〕

第四次　警官に審判を頼むまでの僕と警官の心情を理解させる。　〔1時間〕

第五次　警官の様子、行動と僕の気持ちの変化を読み取らせる。　〔1時間〕

第六次　学習のまとめとして、新聞づくりをさせる。　〔1時間〕

③ 新聞づくり（本時）指導例

(a) 新聞作成プリントおよび資料プリントを配布する。（P40参照）

(b) 新聞作成方法を説明する。

●試合結果や試合の様子の書き方は、資料を参考にさせる。とともに、作品の内容に基ずいてまとめさせる。

●左上の□には、写真の代わりにイラストを描かせる。

●インタビュー記事はそれぞれの立場になって、内容を想像させるとともに、言葉遣いも工夫させる。

●「記者の目」には、「クロスプレー」の学習を終えての感想を書かせる。

●その他、各自に新聞を読むよう努めさせ、いろいろと紙面の工夫をさせる。

(c) 新聞提出にあたっての約束事を確認する。

●提出期限を厳守させる。（即時性の無い新聞は意味が無いこと、締め切りに間にあわなければ新聞ができないことを理解させる。）

●提出した作品は、定期テスト（中間テスト）の点数の一部（20点分）として評価することを確認する。

●評価の観点を説明する。

○文章の筋道が通り、説得力があるか。

○文章に誤字、脱字等の言葉遣いの間違いはないか。

○まとまった分量の文が、丁寧に書かれているか。

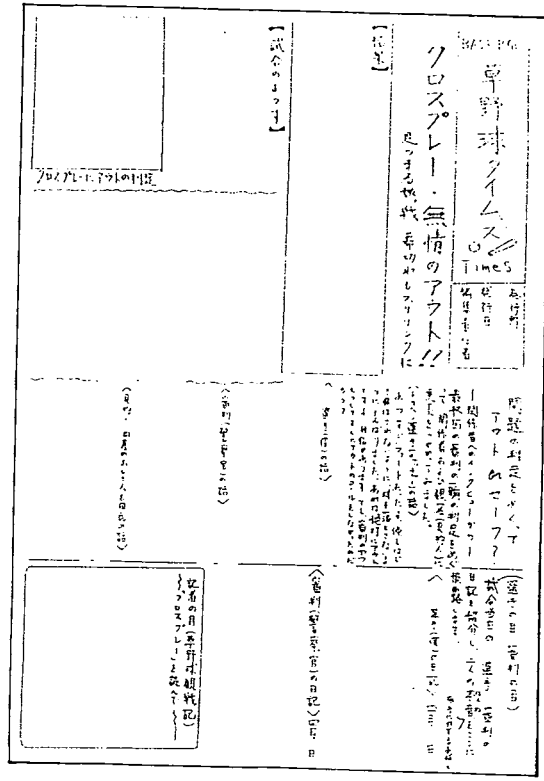
○独自のアイデアや編集に工夫は見られるか。

○イラストが効果的に描かれているか。

○提出期限は守られたか。

④　新聞作成プリントおよび資料プリント

（資料プリント）



（資料プリント）

BASEBALL

草野球タイムズ Times

発行所 ○○○○
発行日 ○月○日
編集責任者 ○○○○

クロスプレー・無情のアウト!!

迫っる熱戦、幕切れもスリリングに

【結果】クワイエットホーイズ ストリープ
イーストボーイズ 0 1 0 0 0 0 1 1 0 5
クワイエット 0 0 1 0 0 1 0 0 1 0 3
〈勝〉木根 〈敗〉小室 〈本塁打〉宮静雷(2)、池山(1)

【試合のようす】

ざわめくような雰囲気の中、プレイボールがかかり引きました。一点だけの勝負したゲームが展開された。最終回、一点ずつ取られ、クワイエットボーイズの反撃にあ、ピンチ、安打が出ると次ッ

クロスプレーにアウトの判定

が来、次に走り一塁セーフ、これが弘樹にとって今試合初の出塁だった。弘樹はその後も積極的に盗塁をくり返し3塁セーフ、そこで3番捕手が犠牲フライを打ち、ピッチャゴロを打った瞬間、弘樹はホームを突き、仲間の出迎えに引きかえしてホームに帰ってきたのんだ。観衆の潮さめやらぬ中、ホームインを取ったのは、弘樹のイーストリードが勝利となった。

問題の判定をめぐって アウトかセーフか?

―関係者へのインタビューから―

最終回の審判の一瞬の判定をめぐって、関係者および観客(見物人)に意見をうかがってみました。

〈どうせ選手(もっぱら)の話〉
あっ、すごいファイトだったよ。俺もはじき飛ばされないように球を捕ってなるように、がんばりました。あれは絶対にアウトですよ。自信があります。でも、審判のやつどうしてすぐにアウトのコールをしなかったのだろう?

〈弘樹選手(僕)の話〉
僕、今回も盗塁成功しました。セーフだろうと、まっ僕がホームに帰ってくるまでそうなんだ。ホームに帰ってくる前にアウトコールがかかってしまったらどうしようと思ってあの時の審判の顔を見ればよかったなあ。

〈審判(警官)の話〉
あのクロスプレーはへわるもんだったよ。こんなこともあるんだなあ。

〈見物人・酒屋のおじさん太田氏の話〉
いやぁ、今日の試合はいろいろ楽しませてもらったよ。なにしろ、あれだけ盗塁されたんだ。なにしろ、あれだけ盗塁されたんだ。

〈選手の目・審判の目〉
試合当日の、選手、審判の日記を紹介し、二人の本音をここに披露します。

〈選手(僕)の日記〉四月○日曜日
今日、イーストリードとの試合。審判とのトラブルがあったりしてくやしかったりしたり、俺のエラーがあったりしたりしたりした

BASEBALL

草野球タイムズ

Times

発行所 山上中学校

発行日 4月1日

編集責任者 [illegible]

クロスプレー・無情のアウト!!

熱戦・[illegible]

【結果】

草野球は間にあわずにアウトのままで試合終了し、0対1でコウハイバレーボーイズが勝った

コウハイバレーボーイズ	0	0	0	1	0	0	0	0	X
ビクトリーイム	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【試合のようす】

その中ほどの上級生で、審判をしていたコウハイバレーボーイズのキャプテンが、ビクトリーイムのアウトを言いわたしました。ビクトリーイムは不満であるのか、自分たちのウルトラ[illegible]でもう一度アウトになっていますが、ビクトリーイムの[illegible]

クロスプレーにアウトの判定

均衡した好チームになっています。しかし、[illegible]

	1	2	3	4	5	6
V	0	0	0	0	0	0
C	0	0	0	1	0	0

問題の判定をめぐって

アウト or セーフ?

—関係者のインタビューから—

最終回の審判の一瞬の判定をめぐって、関係者および観客(見物人)に意見をうかがってみました。

〈ドカベン選手(ちょんぼ)の話〉

あっけない試合だったなあ。俺もはじき飛ばされないように、球を離さないように、必ばりました。あれは明らかにアウトですよ。自信があります。でも、審判のやつどうしてすぐにアウトのコールをしなかったのだろう?

〈草野選手(投)の話〉

俺が投げ終わりそうになったときにセンターのヤツが[illegible]

〈審判(草野球官)の話〉

はっきりして今は何も言わずにおこう。[illegible]

〈見物人・酒屋のおじさん太田氏の話〉

[illegible]

(選手の目・審判の目)

試合当日の選手・審判の日記を紹介し、二人の相違をここに披露します。

〈草野選手(投)の日記〉四月一日

今日は最悪の日だった。自分のせいで、ビクトリーイムは負けた。自分が無計画な投球をしたばっかりに自分は[illegible]

〈審判(草野球官)の日記〉四月一日

今日は[illegible]

⑥

「新聞づくり」を終えての生徒の感想

●新聞記事を書くために、もう一度あらすじを確かめたり登場人物の気持ちを確かめたりしたので、復習もかねて新聞づくりができたのでよかった。

●新聞のスポーツ記事はいつも隅から隅まで読んでいる。だから、今度は作る立場で楽しみながら書けた。スポーツ記者になった気分だった。

●試合の結果、様子などを、想像力を働かせて書くのが楽しかった。書きながらラストのクロスプレーの場面ではいろいろと考えさせられた。

●これまでは何気なく新聞を読んでいたが、これからは新聞記事を作る人の苦労や喜びなどを、文章や写真から想像しながら読んでみたい。

●野球には関心がなく、ルールなどもよく知らないが、試合の様子やインタビュー記事は文中の表現を利用してまとめてみた。記事を作ってみることで、少しは野球の魅力がわかったような気がした。

●中間テストの点数の一部になると聞いたので、一生懸命取り組んだ。先生のほうで、記事の内容や見出しが指定してあったので書き易かったが、その分自分のアイデアが生かせず物足りなかった。自分で割り付けをしたり、見出しを工夫してみたかった。だから、自分で新聞を作ったという実感も余りなかった。

⑦

新聞づくりの指導を終えて

●期限に遅れるものはいたが、全員が作品を提出した。また殆どの生徒は紙面をびっしり埋め尽くしており、意欲的に取り組んでいる様子がうかがえた。

●指導者のほうで紙面の割り付けをしたり、見出しを付けたりしたので、生徒のアイデアが余りいかされなかった。

●試合の結果や様子など、作品の内容とは全く違う、想像力だけで書かれたものも一部見られた。この文章の内容を基にして、そこに想像力を付け加えるということを徹底すべきであった。

●文章表現を評価にいれることで、生徒もその大切さを意識したようだが、評価の観点をもっと明確にする必要がある。

●イラストにそれぞれの個性やアイデアがうかがえた。紙面全体をカラー判に美しく仕上げているものや新聞や雑誌の切り抜きを利用したものなど、生徒たちが楽しみながら新聞づくりをしている様子が目に浮かんできた。

●新聞を作成するために、野球に詳しい生徒（野球部員）などや父親にわからない点を聞いたり、アドバイスを受けたりして、助け合い学習の上でも効果的だった。

●「インタビュー記事」や「選手の目、審判の目」は、人物の心情や行動を多面的にとらえ、想像力を深める上で効果的だった。

●日頃、文章表現に苦手意識を持ち、書くことに消極的な男子生徒も、野球という親しみやすい教材のせいか、意欲的に取り組んでいた。

(2) 古文のパロディーを作ろう〔3年生〕

多くの生徒にとって、古文はかたぐるしい・面白くない・古くさいというイメージが強い。本当は古文の魅力であるはずのその調子や文体、今は使われなくなった古語などが、中学生には親しみにくい原因になっているらしい。しかし、その原因さえ克服すれば、古文は私達の身近なもの、親しみやすいものとして近づいてくるはずである。さまざまな時代を背景にして、そこに昔の日本人の生活や感情が浮かび上がってくる。そして同じ人間〔日本人〕としての共感や反発が生まれてこよう。

そこで、古文をより親しく、身近なものとして生徒に感じさせるために、古文のパロディーづくりを試みた。題材には名作であり、文や古語の抵抗の少ない「枕草子」の冒頭「はるはあけぼの」の段を利用した。名作を元にして、そこに現代の中学生の感覚を、現代の中学生の言葉でパロディー化させてみたわけである。名文のパロディーという類型化した文体の枠にはめたからこそ、かえって生徒の独創性も生かされたように思われる。文体がしっかりしているだけに、仕上がった作品も「我ながら格調の高い名作だぞ。」と満足感も深かったようである。

●ただし、パロディーを書かせる際には、古文の調子や文体にはあまりこだわらず、現代文〔現代語訳風〕や古文もどきの文で書いてもよいという指示を与えた。また、完成した作品はお互いに紹介しあった。みんなの発想〔アイデア〕や文体に触れ、大いに楽しみかつ刺激も受けたようである。できれば、指導者による例文の紹介があれば、文章表現の苦手な生徒も気軽に取り組めるだろう。

（資料プリント）創作例

「春はあけぼの」の文章に基づいて、それを応用した創作文を書いてみよう。（言葉遣い、文体は原文を参考にしよう。カタ・・古文でもよろしい。）

春は苺

春は苺。それに砂糖をかけ、さらにミルクをかけ、スプーンの腹でつぶしながら食う。甘みと酸味が溶けあって、いとうまし。

夏はすいか。たたくとポンポンと音のする大きいやつを、包丁で四等分し、大口をあけてかぶりつく。口の中にほとばしる甘い汁とサクサクとした歯ざわりはいとこころよし。

秋は柿。スーパーのラップに包まれしはよからず。枝にたわわに実りたる、正真正銘の柿色したやつを、木に登りてもぎとるそれを皮ごとかじりつく。ごまの細かく吹きたるは、いうべきにあらず。渋柿も皮をむき干して食べれば、格別の味なり。

冬はみかん。暖かいコタツに入りて、好きな

テレビ番組を見ながら食う味はさらなり。ついつい手が伸び、三こ四こ、五こ六こと、むいた皮がふえてゆく。その皮を風呂に入れて「みかん風呂」を楽しむのも、いとをかし。

〈生徒作品例〉

「春はあけぼの」の創作文

春は竹の子ごはん

三年　高　平　由佳子

春は竹の子ごはん。こりっとした歯ざわりが、ごはんととけあっていとうまし。さらに若竹汁があれば、なおうまし。

夏はそうめん。暑い昼さがり氷を入れたガラスの器に盛られたるをつるつるすするのは、いと涼し。また、トマトやきゅうりを入れれば、色鮮やかにて、をかし。

秋は栗ごはん。大きな実を包丁でむいて、ごはんを炊く。ほかほか熱いうちに食べれば、心まで温まりけり。

冬はおでん。ぐつぐつ煮えている数種類の具に味がしみ込んでいとうれし。口の中でとろけそうなやわらかさもいと快し。

春は花見（未来の僕）

三年　岡　田　智　明

春は花見。桜の花びらが散る木の下で、仲間と飲む酒はいとうまし。また、一つ二つなど桜の花びらの散り落ちたる酒を飲むのもをかし。

夏はお盆。クーラーや扇風機にあたり、冷たいビールを飲む。つまみを食べながら、もうすぐ終わる夏をテレビで高校野球を見て楽しむのは、はたいふべきにあらず。

秋は屋台。残業の帰りに会社友達と屋台によりて、おでんを食べながら、秋の風に冷えきった体をあつかんで温ためて帰るもいとつきづきし。

冬は忘年会。会社のみんなが集まって、どんちゃん騒ぎをするのは、いとをかし。しかし、おやじが上司の人にこびを売っていると思いながら待つ子や妻の気持ちは、いとみじめなり。

終わりに

学習において、感想や意見、人物の心情や場面「段落」の要約、主題などを書かせるときには、自分の言葉で書くことを心掛けさせたい。客観的に正しく書かせる指導と共に、自分の考えたり感じたりしたことを自分の言葉でまとめさせることが必要なのではあるまいか。そのためにも、生徒の親しみやすい身近な題材を選び、イラストづくりを取り入れた文章づくりなど、楽しみながら意欲や興味をもって文章を書かせるための工夫を心がけるべきであろう。

（藤ノ木中学校教諭）